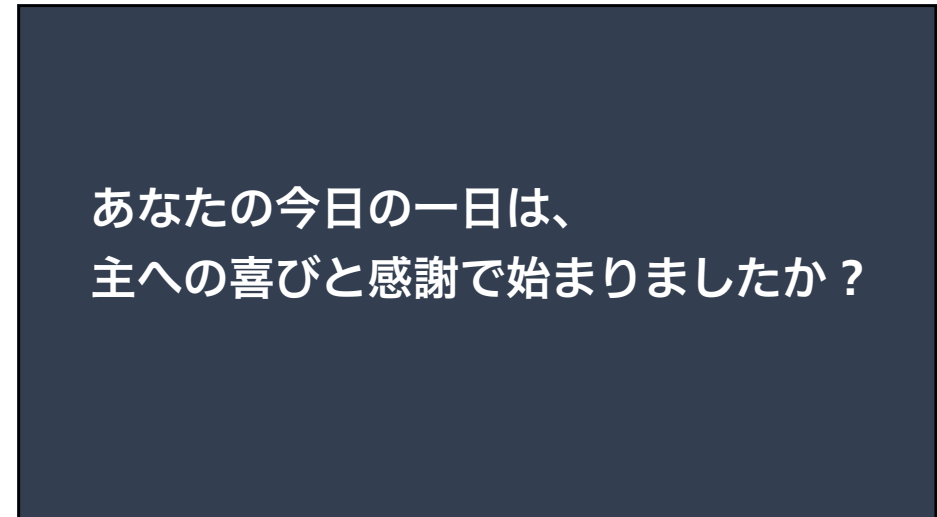




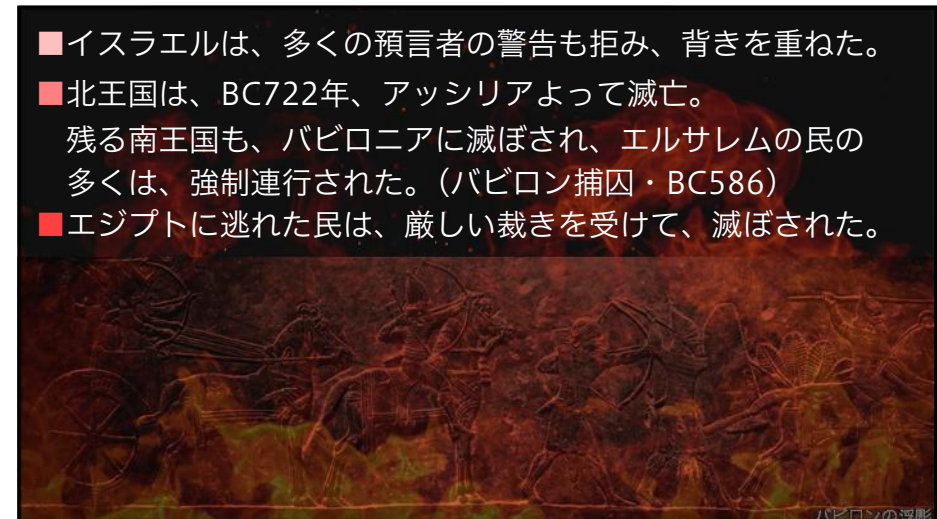
11



12



13



14

前説 エレミヤ書の構成 諸国民の裁きの位置づけ

- クライマックス …イスラエルへの裁き・バビロン捕囚
- 後日談・エピローグ …エジプトへの寄留と裁き
- 外伝・スピンオフ …諸国民への裁き(45～51章)
- 結び …命運が分かれた、捕囚後の王たち(52章)

諸国民への裁きは、外伝・スピンオフ

15

前説 諸国民の裁きの基準

- バビロニアの侵略は、イスラエルの周辺諸国にも及んだ。
→ 周辺諸国の滅びも、神による裁き
- 裁きの理由は、①イスラエルを苦しめたこと
②彼ら自身の偶像礼拝
…唯一の神を知ったにも関わらず
- 裁きの基準は、①イスラエルをどれだけ苦しめたか
②イスラエルとの関係の近さ

16



①異質なペリシテの裁き エレミヤ書47章

17

ペリシテとは？

- 起源はエーゲ文明。海の民。ギリシャ風の文化。
…ヤペテ系(ヨーロッパ)
- ガザ、アシュドデ、アシュケロン、エクロン、
ガテの5つの主要な都市による、都市連合国家。
- 優れた鉄器や軍事力でイスラエルと激しく対立。
…士師サムソン、ダビデの王の時代
- BC8～6世紀。アッシリア、バビロニアに征服。
歴史から消失。現在のパレスチナとは無関係。



18

①ペリシテ 主の言葉 47:1

ファラオがガザを討つ前に*、ペリシテ人について預言者エレミヤにあった【主】のことば。

*バビロニアによる侵略の前に、
バビロニアと衝突したエジプトに侵略。

■エレミヤを通しての
ペリシテへの裁きの宣告。

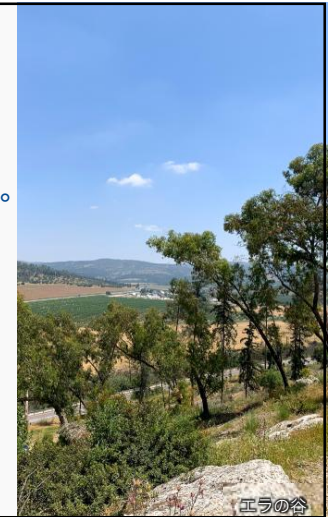


19

①ペリシテ 北からの侵攻 47:2～3

【主】はこう言われる。「見よ。北から水が上って来て*あふれる流れとなり、地とそこに満ちているもの、町とその住民を押し流す。人々はわめき、地の住民はみな泣き叫ぶ。荒馬のひづめの音のため、戦車の響き、車輪のとどろきに、父親たちは氣力を失い、子どもたちを顧みない。

*北からのバビロニアの侵略を示す



20

①ペリシテ 破滅の日 47:4～5

すべてのペリシテ人を破滅させる日、ツロとシドンを助ける生き残りの者すべてを断ち切る日が来たからだ。まことに【主】は、ペリシテ人を、カフトルの島の残りの者を破滅させる。ガザは頭を剃られ、アシュケロンは黙らされる。平地の残りの者よ*、いつまで、おまえは身を傷つけるのか。」

*海辺の平地に住んでいたペリシテ人のこと



21

①ペリシテ 主の剣 47:6～7

「ああ、【主】の剣よ。いつまで休まないのか。さやに収まり、静かに休め。」
どうして、休めるだろうか。【主】が剣に命じられたのだ。アシュケロンとその海岸、そこに剣を向けられたのだ。

■主の裁きの剣は、ペリシテが滅ぶまで、休むことがなかった。

ペリシテは、歴史上消滅!!



22

①異質なペリシテへの裁き

【イスラエルとは対極にあったペリシテ】

	イスラエル	ペリシテ
ルーツ	セム系	ヤペテ系
民族	牧畜民族	海洋民族
文化	中東文化	ギリシャ文化
信仰	唯一の神・ヤハウェ	偶像の神々

■民族も文化も信仰も、全く異質な存在だったペリシテ。

イスラエルを苦しめ、主に裁かれ、完全に滅亡

23



②近親のモアブの裁き・前半

エレミヤ書48章1～24節

モアブ(現ヨルダン)・北部の高地

24

モアブとは？

- アブラハムの甥・ロトの子孫。親近の民族。死海の南東の山岳地帯に国家を築く。
(現在のヨルダンがある辺り)
- イスラエルを邪魔…バラク王、呪術師バラム。その後も、イスラエルと度々衝突。
- 血縁関係を結んだ者も。…モアブ人ルツ。友好関係…逃亡中のダビデの両親の一時避難先。
- BC6世紀、バビロニアによって滅ぼされた。



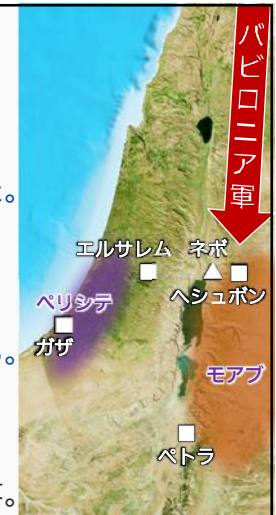
25

②モアブ前編 町々のわざわい 48:1～2

モアブについて。イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。「わざわいだ、ネボ*。これは荒らされた。キルヤタイムも辱められ、攻め取られた。その砦は辱められ、打ちのめされた。もはやモアブの誉れはない。ヘシュボン*は、これに悪事を企んでいる。『行って、あの国民を絶ち滅ぼし、無き者にしよう』と。マデメンよ、おまえも黙らされる。剣がおまえの後を追っている。

*モーセが最後に約束の土地を臨んだ山

■首都ヘシュボン他、主要な町々が、次々と陥落。



26

②モアブ前編 山々の町々 48:3～6

ホロナイムから叫び声がする。『暴行だ。大いなる破滅だ』と。モアブは打ち破られる。その幼き者たちは 叫び声をあげる。

まことに、ルヒテの坂*は嘆きの中にあり、彼らは泣きながら上る。ホロナイムの下り坂*では、痛々しい破滅の叫びが聞こえる。

逃げて、自分自身を救え。荒野の中の灌木のようになれ。

■山岳地帯*の堅固な町々も、次々陥落。

侵略は、豊かな北部 → 山岳地帯 → 荒野へ



ヨルダンの山岳地帯

27

②モアブ前編 モアブの捕囚 48:7～8

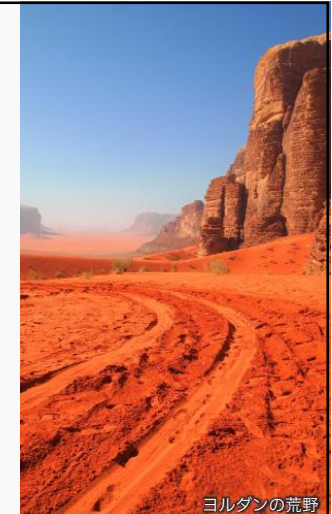
おまえは自分が作ったものと財宝に頼りだったので、おまえも捕らえられ、ケモシュ*はその祭司や首長たちとともに、捕囚となって出て行く。

荒らす者*がすべての町に入ってくる。町は一つも逃れられない。谷は滅び失せ、平地は根絶やしにされる。—【主】がそう言われる

*モアブであがめられていた偶像の神

→ 敵に捕らえられてしまうのが、偶像

*侵略者のバビロニア軍



ヨルダンの荒野

28

②モアブ前編 主ののろい 48:9～10

モアブに翼を与えて、飛び去らせよ*。その町々は住む者もなく荒れ果てる。

【主】のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ*。その剣をとどめて血を流さないようにする者は、のろわれよ。

*多くの人々は捕囚として連れ去られた。

*先祖口トは、唯一の神を知っていたが、

モアブは偶像礼拝に陥り、主ののろいを。

→ 主を知っていたからこそ問われる責任



ヨルダンの荒野

29

②モアブ前編 モアブの恵み 48:11

モアブは若いときから安らかであった*。彼はぶどう酒の澂の上によどみ、桶から桶へ空けられたこともなく、捕囚として連れて行かれたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、香りも変わらなかった。

*建国当初から豊かな恵みを与えられていた

■一時期、北王国のオムリ王に支配されたりはしたが、基本的に独立を保っていた。



ヨルダンの丘陵地帯

30

②モアブ前編 主の裁き 48:12～13

それゆえ、見よ、その時代が来る—【主】のことば—。そのとき、わたしは彼に酒蔵の番人たち*を送る。彼らは彼を桶から移し、彼の桶を空にして、壺を砕く*。

モアブは、ケモシュのゆえに恥を見る*。イスラエルの家が、彼らが抛り頼むベテルのゆえに恥を見たように。

*主に代わる番人＝バビロニア

モアブは捕囚にされ、土地は荒らされる。

*偶像礼拝のゆえに神の裁きを受ける



31

②モアブ前編 モアブの敗退 48:14～15

どうして、おまえたちは言えるだろうか。

『われわれは勇士、戦いの豪の者だ*』と。

モアブは荒らされ、その町々は襲われて、選り抜きの若者たちが屠り場に下って行く。—その名を万軍の【主】という王のことば—

*勇壮さを誇る民族だったモアブ。

■屈強なモアブの兵士たちも無残に敗退。



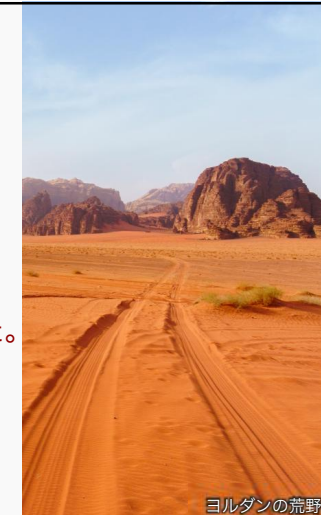
32

②モアブ前編 モアブの嘆き 48:16～17

モアブの滅びは近づいた。そのわざわいは速やかにやって来る。

周りの者、その名を知る者はみな、これのために嘆け。『どうして、力ある杖、輝かしい笏*が砕かれたのか』と。

*王のしるし。滅亡直前まで、繁栄していた。



33

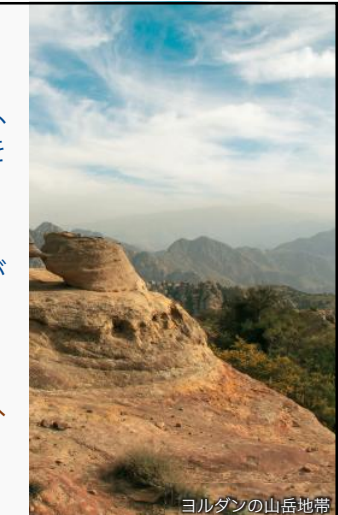
②モアブ前編 町々の陥落 48:18～19

ディボンに住む娘よ。栄光の座から降りて、潤いのない地に座れ*。モアブを荒らす者が、おまえのところに攻め上り、おまえの要塞を滅ぼしたからだ。

アロエルに住む女よ。道の傍らに立って見張れ。逃げる男、逃れる女に尋ねて、『何が起こったのか』と言え。

*北部の豊かな高地を追われ、南部の荒野へ

■モアブ各地の城壁に囲まれた町々が、次々と陥落させられていった。



34

②モアブ前編 滅びの町々 48:20～24

モアブは打ちのめされ、辱められた。泣き叫び、わめけ。アルノンで『モアブは荒らされた』と告げよ。

さばきは次の平地に臨んだ。ホロン、ヤハツ、メファアテ、ディボン、ネボ、ベテ・ディブラタイム、キルヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオン、ケリヨテ、ボツラ*、モアブの地の遠くの町、近くの町すべてに。

*ペトラ。艱難時代のイスラエルの避難先。

■南部の荒野の町々にも侵略の火の手が!!



ペトラの遺跡

35

②近親のモアブへの裁き・前半

■北部の豊かな高地から南部の荒野まで、全土が壊滅。

■モアブへの裁きの理由

①偶像礼拝・ケモシュ神への礼拝

②イスラエルを苦しめた

■モアブの裁きが、より重くなった理由

➡イスラエルの近親。唯一の神を知っていた。

モアブへの裁きは、近親ゆえに重いものに!!

36



③近親のモアブの裁き・後半

エレミヤ書48章25～47節

ペトラ・宝物殿

37

モアブの偶像礼拝の根

■ロトが選んだのは、繁栄していた低地。

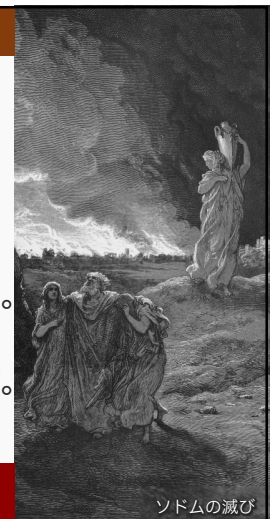
➡住み着いたのは、暴虐の街ソドム。
姦淫と靈的姦淫が蔓延。

■ソドムからの逃れ先として小さな街に固執。

➡結局、次なる裁きを恐れ、街には住めず。

■二人の娘が父を犯して生んだ子からモアブが。

姦淫と靈的姦淫がモアブの根にあった



ソドムの滅び

38

③モアブ後編 神の怒り 48:25

モアブの角*は切り落とされ、その腕は砕かれた——【主】のことば。

彼を酔わせよ*。【主】に対して高ぶったからだ。モアブは、へどを吐き、彼も笑いものとなる。

＊角は、権威の象徴

＊神の怒りの杯を飲み干して、“酔う”

→イスラエルにも用いられる表現



ヨルダンの荒野

39

③モアブ後編 嘲笑の代償 48:27～28

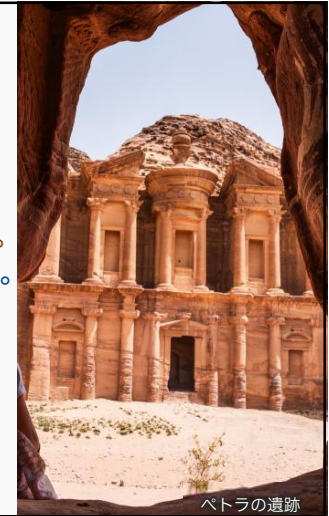
イスラエルは、おまえにとって笑いものではなかったのか。それとも、おまえが彼のことを語るたびに彼に向かって頭を振っていたのは、彼が盗人の間に見つけられたためか。

モアブの住民よ。町を見捨てて岩間に住め*。穴の入り口のそばに巣を作る鳩のようになれ。

＊ロトはソドムの破滅を逃れて岩の洞窟に。

→モアブの地に後代に築くのがペトラ

■イスラエルの滅びを嘲笑した代償が!!



ペトラの遺跡

40

③モアブ後編 傲慢と不遜 48:29～30

われわれはモアブの高ぶりを、一彼は実に高ぶる者—その傲慢、その高ぶりを、その誇り、その慢心を聞いた。

わたしは彼の不遜さを知っている。—【主】のことば—その自慢話は正しくない。その行いも正しくない。

■モアブの罪の一つは、
主の前での、傲慢、不遜。



ヨルダンの荒野

41

③モアブ後編 主の涙 48:31～32

それゆえ、わたしはモアブのために泣き叫び、モアブ全体のために叫ぶ。人々はキル・ヘレスの人々のために嘆く。

シブマのぶどうの木よ。わたしはヤゼルの涙にまさり、おまえのために泣く。おまえのつるは伸びて海を越えた。ヤゼルの海に達した。そして、おまえの夏の果物とぶどうの収穫を、荒らす者が襲った。

■モアブから輸出された豊かな産物が、むしろバビロニアの侵略を招くことに!!



モアブを
主は嘆かれる

ヨルダンの丘陵地帯

42

③モアブ後編 モアブの荒廃 48:33～34

モアブの果樹園から、その地から、喜びと楽しみが取り去られる。わたしは石がめから酒を絶えさせた。喜びの声をあげてぶどうを踏む者もなく、ぶどう踏みの喜びの声は、もはや喜びの声ではない。

ヘシュボンが悲鳴をあげたので、その声はエルアレとヤハツまで、ツォアルからホロナイムやエグラテ・シェリシヤまで届く。ニムリムの水さえ荒廃するからだ。

■果樹園は荒らされ、水場さえも荒廃する。



ヨルダンの荒野

43

③モアブ後編 偶像礼拝者 48:35～37

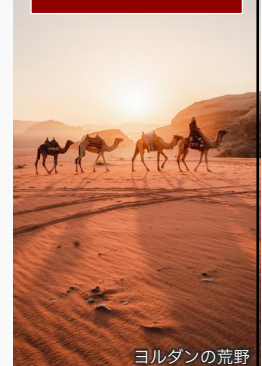
わたしはモアブで——【主】のことば——高き所でいけにえを献げる者を、その神々に犠牲を供える者を取り除く。

それゆえ、わたしの心は、モアブのために笛のように鳴る*。わたしの心は、キル・ヘレスの人々のために笛のように鳴る。彼らの得た富も消え失せたからだ。

実に、彼らは頭の毛をみな剃り、ひげもみな切り取り、手もみな傷つけ、腰に粗布を着けている*。

*主の喜びの笛 *偶像礼拝者の特徴

イスラエルと
重なる
モアブの裁き



ヨルダンの荒野

44

③モアブ後編 モアブの恥 48:38～39

モアブのあらゆる屋根の上や広場には、嘆きしかない。わたしがモアブを、だれも欲しがらない器のように砕いたからだ——【主】のことば——。

どんなにか打ちのめされて、泣き叫ぶことか。どんなにかモアブは恥を見て、背を見せることか。モアブは、その周りのすべての者の笑いものとなり、恐怖のもととなった。」

■裁かれたモアブには、恥と嘆きしかない。

→誇り高い民には、耐えがたいこと!!



ペトラの遺跡

45

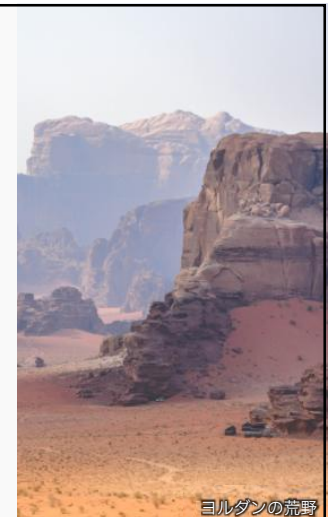
③モアブ後編 モアブの滅亡 48:40～42

まことに、【主】はこう言われる。「見よ。敵が鷲のように襲いかかり、モアブに対して翼を広げる。

町々は攻め取られ、要害は取られる。その日、モアブの勇士の心は、産みの苦しみにある女の心のようにになる。

モアブは滅ぼし尽くされて、民でなくなる。【主】に対して高ぶったからだ。

■モアブの国、民族自体が消滅!!



ヨルダンの荒野

46

③モアブ後編 刑罰の年 48:43～44

モアブの住民よ、おまえを恐怖と落とし穴と罠が襲う。——【主】のことば——

その恐怖から逃げる者は穴に落ち、穴から這い上る者は罠に捕らえられる。わたしがモアブに彼らの刑罰の年*を来させるからだ。——【主】のことば——

*主の裁きにより罰が下される時には、
→誰も、どこにも逃れようがない!!



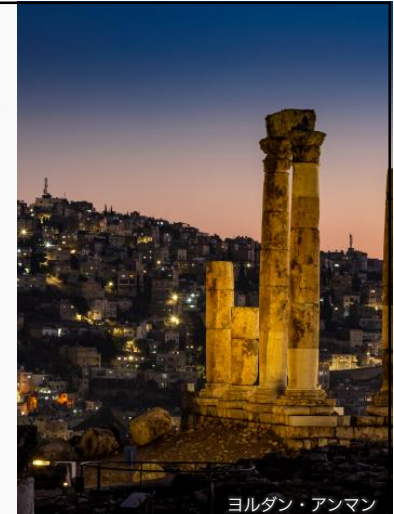
ヨルダンの荒野

47

③モアブ後編 都の焼失 48:45

ヘシュボン*の陰には、逃れる者たちが力尽きて立ち止まる。火がヘシュボンから、炎がシホンのうちから出るからだ。それは、モアブのこめかみと、騒がしい子どもの頭の頂を焼く。

*モアブの都
現在のヨルダンの首都アンマンの近く
都にいた者たちは、
逃れる先もないと知り、滅んでいく。



ヨルダン・アンマン

48

③モアブ後編 モアブの回復 48:46～47

ああ、モアブ。ケモシュの民*は滅びる。おまえの息子は捕らわれの身となり、娘は捕虜になって連れ去られるからだ。

しかし終わりの日に、わたしはモアブを回復させる*。——【主】のことば。」ここまでがモアブへのさばきである。

*偶像神ケモシュを信仰する民
*メシア再臨の時には、モアブも回復!!

イスラエル同様、終わりの日に救いの希望が!!



ヨルダンの荒野

49

③近親のモアブへの裁き・後半

【大きな恵みゆえの重い裁き】

- 建国当初から豊かな恵みを与えられていた。
- 唯一の神・ヤハウェを知っていた。
…先祖は、信仰者口ト
…イスラエルの近親の民族。交流も深かった。
- 偶像礼拝に陥り、イスラエルを苦しめ、嘲った。

それでも、はるかな将来の希望は残された!!

50



まとめと適用 恵みに応じた責任に応えよう

ヨルダンのワジ

51

まとめ 裁きの原則を押さえよう

より責任が重いのは？

- ①北王国と南王国 …都エルサレムがあった**南王国**
- ②異邦人とイスラエル …神の民とされた**イスラエル**
- ③ペリシテとモアブ …イスラエルの近親の**モアブ**

与えられた恵みが増すほど 応答の責任も大きくなる

52

適用 裁きの原則を私たちに適用しよう

より責任が重いのは？

- ①未信者とクリスチャン …救いを得たクリスチャン
- ②リベラルと福音派 …聖書を信じる福音派
- ③聖書を学ばない人、
学ぶ人 …聖書を正しく学ぶ人ほど

聖書を学んで恵みが増すほど、応答の責任は大きく!!

53

適用 人は、恵みを受けながら罪を犯す

【聖書に記された、聖徒たちの過ちに学ぼう】

…滅亡を免れた口トの末路、恵まれたモアブの滅亡。
信仰の英雄ダビデの大罪。知者ソロモンの過ち。
弟子の誰も疑いもしなかった、ユダの裏切り。

…王の栄誉、王国の繁栄、メシアの弟子となる光栄、
大きな恵みを受けながら犯した大罪。罪人の現実。

主の恵みを知りながら、罪犯するのが私たちと知ろう

54

適用 人は、恵みを受けながら罪を犯す

【私たちは、自分たちの現実からも学ばせられる】

例) 知人の牧師の犯した、まさかの金銭的疑惑、性的罪。
福音派の出身。

カルト的な教会での問題意識から、リベラルへ。
小さな教会での工夫を凝らした、精力的な働き。
キリスト教作家の信仰について、熱く語っていた。

→問われるのは、やはり、主への信仰そのもの

主の恵みに、主への信頼をもって応えていくためには？

55

★ 恵みを受けよう 恵みに応えよう ★

- 恵みを当たり前とするところに、傲慢が生まれる。
→恵みを自分の力で獲得したものであるかのように!!
- 聖書に真摯に向き合う時、突きつけられる自分の罪。
→ただの知識でとどまっていられるわけではない
- 御言葉に刺し貫かれよう。日々、打ち砕かれよう。
主の恵みが恵みとして、心身に染み渡っていくように。

主の恵みの通り管として、主を証し、福音を宣べ伝えよう

56

てん どう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし かみ みこ しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

しゅ わたし えいえん じしん たみ
主が私たちを、永遠に、ご自身の民としてくださいました。

めく み こころ み
このはかりしれない恵みで、この身を心を満たしてください。

ひび う くだ よろこ かんしゃ つか
日々打ち砕かれつつ、喜びと感謝をもって遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

57